

I want to be a pilot

筑波大学附属小学校 五年 大江 琉聖

僕が初めて自分の夢を持ったのは、小学四年生の頃だ。横浜のみなとらい技術館でMRJを操縦した時、離着陸の爽快感に圧倒され、それが次第にパイロットになり、旅客機を操縦したいという意欲に変わっていった。

そこでパイロットになるための方法を知らべてみたところ、パイロットになるためには二つの方法があることが分かった。一つ目は、ふつうの高等学校を卒業後、航空学科のある大学に入学しパイロットに必要な資格を取り、航空会社に入社する方法。二つ目は大学卒業後航空会社に入社し、パイロットを目指す方法である。

航空学科のある大学に進学し、最短でパイロットを目指すという方法もあるが、僕は四年間の大学生活の中で様々なことを学ぶと共に、心と体を鍛えて自分の力で航空会社へ入社する道を選びたいと思

う。

次に、パイロットになるために必要なことを調べてみると、「体力」「精神力」「語学力」がパイロットにとつてとても必要なことであることが分かった。だが、僕はそれ以外にも世界中を飛びまわり、多くの国やその国の人達と関わり合うためには様々な「知識」が必要だと思った。そのためには、ふつうの大学に通って授業から、多くの知識を得る必要があると考えたため、航空学科のある大学ではなくふつうの大学に通い、航空会社への入社を目指したいと考えたのである。

そして、パイロットになるために今の僕に足りないことは何か、と考えた。残念ながら、今の僕には「体力」「精神力」「語学力」のどれもが不足している。従って、これからどうやってそれらを身に付けていくかの計画を考えている。体力と精神力は「剣道」で身に付ける。

語学力は英語を学びTOEICで七〇〇点以上のスコアを目指す。など。どれも決して簡単なことではないが、夢をかなえるための努力であれば、きっと僕はがんばることができるだろう。そして、いつかキャプテンになり、ANAの伝説のグレートキャプテンの井上キャプテンの言葉、「パイロットの魅力を一言で言うとは、鳥になれる。これに尽きる」を僕も体験したいと思っている。

琉聖のライフプラン

将来なにになりたいか？ 海外を飛び回る旅客機のパイロット(グレートキャプテン)
その理由: 小さい頃、横浜の三菱みらいとみらい技術館でMRJのフライトシミュレーターを操縦した時の感動が忘れられず、大きな旅客機を自分で操縦したい、と思ったため。

夢をかなえるまでのスケジュール

Table with 4 columns: Year (西暦), Age (年齢), Effort (夢をかなえるために努力すること), and Cost (努力するために、なににお金がかかりそうか). Rows detail the student's plan from age 5 to 45, including school completion, university enrollment, and pilot training.

※最後の行は、何歳の時にどうなっていたいかなど、自分で好きな年を入れてみましょう！